

令和 2 年度アンケート調査結果報告書

共生型福祉サービス事業所「タップチップス」【児童発達支援・放課後等デイサービス】を利用されている保護者にアンケート用紙を配布した。

記載していただいたものを参考に職員全員で、現状の課題を分析した。

課題について

環境・体制整備について

年度の途中で離職者が出たため引継ぎ等に手間取り、補充した職員の動きが不十分であった。

対策として、OJT を活用するとともに、毎月職員会議・職員研修会を行い業務の質の向上を図った。

具体的解決方法として、施設内の見やすいところに数ヶ所、ホワイトボード掲示板を設置し、各職員が気付いた点や新しい情報を書き込むことで全職員が情報や支援内容を共有することが出来た。

また、毎朝利用児童と共に朝の体操（ラジオ体操；リズム体操；手洗い動画等）を行い、その後朝礼を行い、送迎時での保護者からの伝達事項や、利用児童の日々の変化について報告するようにしたことで業務内容の改善につながった。

業務改善項目について

業務改善は徐々に進んだが、改善がよりよく進むように部会活動（研修部会；虐待防止委員会；子供アプローチ部会；送迎部会；食事提供部会；入浴・医療部会；事務請求部会；日用品チェック部会；清掃部会）に各職員がそれぞれの部会に所属し、活動をすることによって PDCA を意識し業務の見直しが出来る体制づくりを行った。各部会の活動を充実させ活動の記録を残すために、部会会議開催伺い・部会会議議事録・部会活動報告書（振り返りと次回の改善を記載する）の作成を義務付けた。各書式は年度末から取り組んだためその成果は次年度の活動の質の向上に資することが期待できる。全体として組織全体の動きを部会活動を通して業務内容の改善を図ることが出来た。

第三者評価は実施できていないため今後の課題である。

適切な支援の提供について

「前年度に比べるとかなり改善・進歩しているが、細部まで行き届いていないと感じる」との意見が多かった。個別支援計画書に沿ってアプローチしているが、時間の制限や他の支援（入浴介助や排泄対応等）でなかなか充実して取り組めていない。

解決策として、児童発達支援専門員を中心に担当者会議においての情報の提供の更なる充実と、全職員への個別支援計画の内容の伝達方法の見直しと、担当者会議の参加職員のみならず書面による全職員からの情報の収集を充実するための取り組みを始めている。今後はこれらの結果を踏まえ更なる改善を目指していく必要がある。

関係機関との連携について

「他の事業所との連携はしているが、職員に向けての可視化は不十分である」との意見があった。

他の事業所との連携は児童発達支援専門員が主体となって行い、必要な情報は朝礼時に報告するなどして情報共有を行っている。自立支援協議会の医療・児童部会に参加するとともに、自立支援協議会の研修等にも積極的に

参加し必要な情報は職員会議等で伝達している。また、直轄地区地域生活支援拠点等緊急受け入れ事業の説明会にも参加し、具体的に制度が運用されれば事業所として登録する予定である。

保護者への説明責任について

定期的ではないが、保護者の状況に応じて柔軟に対応している。

例年は利用児童（保護者）の居住地が八幡方面から飯塚市と広範囲であるため、全体的な保護者会を12月のイベント（クリスマス会）の時に行っていたが、今年度は新型コロナウイルス対策として保護者の参加はご遠慮していただき、代わりに各保護者へのアンケート調査を行い、その内容を支援に反映させた。

利用児の意思疎通や意思伝達については、絵カードを用いたり、色分けをしたりして、工夫して接している。事業所の行事や施設概要。行事月間スケジュールをホームページ等を活用してお知らせしている。

非常時等の対応について

避難訓練等は実施した。今後も定期的に行い、意識付けを行っていききたい。虐待防止や身体拘束についても、県の虐待対応チームに所属していた職員より、随時事例を交えた説明が行われており職員の理解が深まるように取り組んでいる。

身体拘束が必要な児童については、保護者より「同意書」を取っているが、虐待に繋がらないように細心の注意を払っている。

各対応マニュアルは作成しているが、「熟読している」までは至っていないため、次年度の研修部会で計画的に取り組んでいく予定である。利用児のアレルギーについては、看護師・栄養士を中心に十分配慮しているとの見解であった。

ヒヤリハット、事故報告書は記録を残している。

全職員よりの総論

「前年度に比べると改善されている」との意見が多数であったが、まだまだ改良していくところは多々ある。各部会活動を通して改善を進めていく必要がある。

新型コロナウイルス対策については、手洗い；消毒；マスクの使用；業者に委託し全館の消毒と清掃を実施した。しかし、令和3年1月に他事業所を併用している児童の利用後、本人がPCR検査の結果陽性であることが判明し、同じ日に利用していた利用者（長期入院後利用を再開していたが、免疫力が低下している状態であった）が発症したため、保健所に報告の上、利用児童及び全職員のPCR検査を受ける。結果は全員陰性であったが、3週間程業務を停止し全館の消毒を実施。2月よりの事業再開に向けての準備（児童の受け入れ態勢；全室に空気清浄機及び加湿器の設置；換気の更なる徹底；手洗い；手指の消毒；マスクの着用；利用児童及び職員の日々の健康チェック）を行う。事業再開に向けて感染防止が徹底するように職員会議を開催した。併せて福岡県；宮若市に報告を行う。

〒823-0001

福岡県宮若市龍徳字野入1081番地
社会福祉法人 心誉会
共生型福祉サービス事業所 「タップチップス」